

# 「腰椎分離症・ 分離すべり症」

整形外科部長 兼 診療放射線科部長

向山 啓二郎

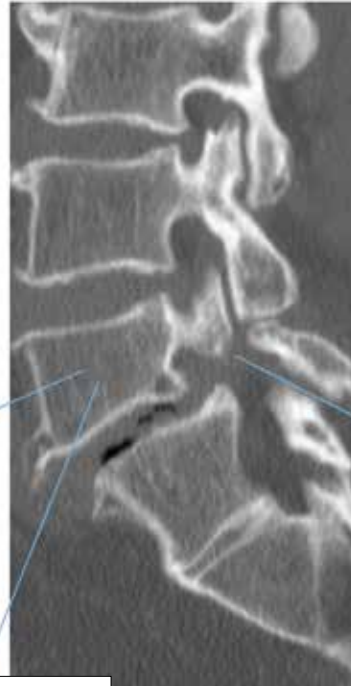


単純X線



腰椎分離すべり症

CT



前方へのすべり

今月は腰椎分離症、分離すべり症についてです。腰椎分離症

とは腰椎の椎弓関節突起間部と呼ばれる部分で椎弓が前後に分離してしまう病気です。原因は激しいスポーツや重労働により、腰椎に過度に後ろにそのような力が加わること、さらにその姿勢で腰をねじるような運動をすることにより起こる疲労骨折といわれています。圧倒的に第5腰椎に多く、まれに第4腰椎にも起こります。分離の起こりやすい脊椎の形や並びもあります。

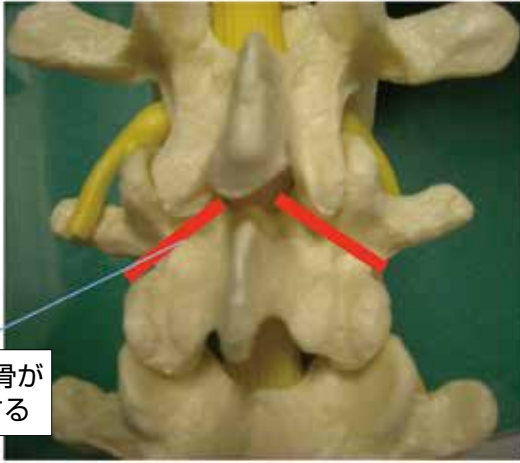
この疲労骨折は成人にも起こりえますが、骨の柔らかい小中学生で激しいスポーツを

している人にも多い病気です。

分離症が起こると腰椎の不安定性を生じ、骨の並びがずれて分離すべり症になることもありますが、分離症から分離すべり症に移行してしまうものは成人になってから発症した人よりも学童期に発症した人に多いといわれています。

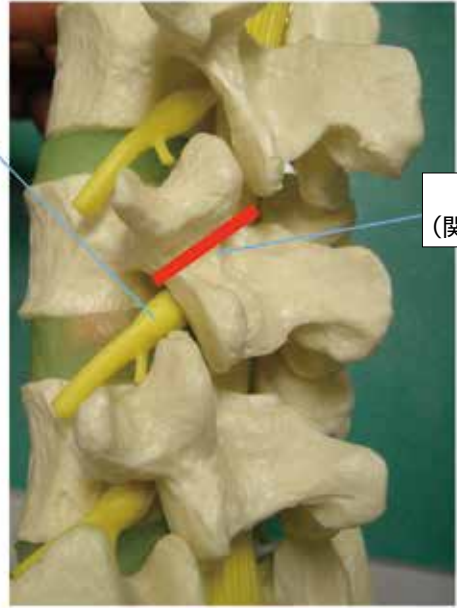
症状は腰痛です。動いた時の痛みが主で、左右どちらかが痛くなることもあります。腰痛と一緒に下肢のしびれ、痛みが出ることもあり、腰椎椎間板ヘルニアなどの症状に似ています。レントゲンですぐに分かる場合もありますが、CTも診断には有効です。ま

神経根



ここで骨が分離する

腰椎を後ろから見たところ



椎弓  
(関節突起間部)

腰椎を左側から見たところ

た、全くずれていない初期の分離症はMRIでの診断が有効となることもあります。

治療は、分離がありすべりがなければ硬いコルセットを数か月装着し、スポーツを休んで腰を安定させることにより、分離した部分が治つてもそのような可能性もあります。学生時代のスポーツ活動はその時しか経験できない貴重な時間ではありますが、しっかりと時間をかけて治すことにより将来の腰痛を減らすことができます。

すでにすべりを生じてしまっている場合や、コルセットで治らない場合には残念ながら分離、分離すべりを完治させることは難しくなってきます。痛みは治まることもありますが、痛みどめや注射な

どで様子を見ながらスポーツを続ける場合もあります。

痛みが強い場合には手術をする場合もあります。ずれがない場合には手術で分離した部分をくつつけることもあります。すべりが出れば、腰椎の固定術を行います。患者さんそれぞれの症状の強さ、生活環境、将来の見込み、分離、すべりの状況で適切な治療法を選ぶようになっています。

